

第一回プラバンアクセサリー作製トレーニング報告書



1. 実施期間	2017年2月末～2017年4月中旬
2. 実施国	インド
3. 活動地域	ウェストベンガル州プルリア地方マニプールハンセン病コロニー
4. 活動の背景	ワークキャンプ事業によってインフラ整備とコロニーの周辺住民の持つ差別意識の解消に取り組んできた。活動を継続的に行うことでコロニーの人々との関係構築が十分にでき、周辺住民からの差別も減少している。そこで、ワークキャンプ事業と並行して、今後は就労支援事業を強化、拡大することでコロニーの人々の収入の安定化を目指す。
5. 活動の目標	就労トレーニングによって手に職を得たコロニーの人々が、市場で自ら商品が売ることができるようになることで、安定した収入を得ることを目指す。安定した収入を得ることができたコロニーの人々が、子供たちに十分な教育を受けさせることができ、その子供たちがさらに安定した職業へ就くことができるといった正のスパイラルを生み出す。
6. 実施概要	マニプールハンセン病コロニーにおいて、プラバンを使ったアクセサリー作製トレーニングを行った。ピアスのパーツを作製し、当団体が運営するインド雑貨輸入販売事業（インド雑貨やさん oaks）にて買い取りを行った。

(1) 実施した内容

①トレーニングに参加する女性の選抜を行うミーティングの開催

コロニーの村長立ち合いのもと、参加希望者計 43 名の中から、これまで行ってきたトレーニングでの就労態度や金銭状況、家族構成などを考慮して計 23 名を選抜した。参加希望者間で選抜の有無に関する問題が起きないように、選抜条件を全員にきちんと説明するとともに、必要に応じて個人的な相談会を開催した。

②参加者に対するオリエンテーションの開催

コロニーの村長立ち合いのもと、決定した参加者を集め、事業の趣旨・概要や注意・禁止事項の通達、トレーニング開催日時の決定した。参加者が多いことから、メンバーを 2 グループに分けて、子供の世話や家事との兼ね合いを考え、週 6 日、それぞれ 1 日 3 時間ずつ行うこととした。

③トレーニング（プラバン製作練習）

まずはプラバンに慣れてもらうために、日本から持参した既製品のプラバン作製キットを見本として、プラバン作製の作業工程の把握とスキル向上を目指した。

④トレーニング（商品作成）

参加者のスキル向上を図ったのち、実際の商品作製に取り掛かった。練習時以上に、より精密な作業が必要であるため弱音を吐く者も現れたが、必要に応じて個人的な相談に乗ったり、つきっきりで教えたりすることで、どのメンバーもある程度の商品を作ることができるようになった。



作業風景



完成したピアスのパーツ

《作業工程》

I. プラバンをやすりでこすり傷をつける



II. プラバンを商品のサイズに切る



III. 色づけをする



IV. オーブントースターで焼く



V. ニスを塗布する



VI. 完成した部品をボンドで接着する



⑤参加者に対するヒアリング

トレーニング終了間近に参加者に対するヒアリングを行った。今回の参加者は全て既婚の15歳以下の子供が複数いる女性ばかりだったが、彼女たちに今後のトレーニングに対する展望や希望月額収入、希望する就労状態、プラバンによる商品作製業務についての感想をヒアリングした。(ヒアリング結果の一部を実施事業②「②女性に対する就労トレーニングについて」にて後述)

⑤近隣の店に対する卸売アプローチ

トレーニング終了間近から、当団体の担当スタッフを中心として、女性と共に近隣のアクセサリー・雑貨

店に卸売販売についての商談に行った。しかし、トレーニングに予定以上に時間がかかってしまい満足に商談を行えなかったことや、店舗に置いてもらえるだけの品数や種類がまだ満足にないこと、フェアトレードと言えるような金額での買い取りを拒否されたことから、商談を成立させることができなかった。そのため、今回は当団体が運営しているインド雑貨屋さん oaks にて買い取り販売することとした。

(2) 事業を通して気付いたこと、問題点など

①識字ができない女性について

今回のトレーニングに参加した女性の中に、自分の名前を現地の言葉でも、英語でも書けないメンバーがいた。トレーニング自体には大した支障はなかったものの、当事業の目的である、安定した収入源を持ち尊厳をもって生きるためにも、自らや家族の将来設計を立てる上でも、文字が書けるというのは最低限の必要不可欠な教養であるといえるので識字のできない女性に対する支援も必要ではないかと考えた。

②女性に対するトレーニング事業について

今回のトレーニングでは、製作の工程上オーブントースターが必要であり、商品の特性上清潔で安定した机や椅子が必要だったため、毎日参加者にトレーニングルームに集ってもらい開催していた。しかし、今回の参加者の半数が幼い子供がおり、家事に加え、子育てをしながらのトレーニングへの参加は、時に困難なこともあった。(当団体としては、子供の年齢や有無にかかわらず、自身や家族の将来のために、まじめに前向きにトレーニングに取り組む女性を優先して支援したいと考えているため、子育ての理由から突然の欠席リスクがあり得る女性も含めて選抜した。) 具体的には、子供の急な発熱や子供がぐずって外出できない、他に子供の面倒を見てくれる家族がおらず、その日はトレーニングに参加できないなどという理由から急に欠席するメンバーも中にはいたということである。こうした状況や参加者からのヒアリングを振り返って、在宅でできる仕事が最も望ましいと考えられるようになった。しかし、インドにおける在宅でできる仕事はかなり数が限られている上に、彼女たちは文字が読めないために新聞やスマートフォンで情報を得ることができない状況にあること、またハンセン病コロニー在住という理由から差別され、応募しても仕事が得にくいといった理由から、内職を得ることは難しいと考える。そのため、今後は当団体が職業を見つけ、紹介する形で彼女たちの就職を支援するか、もしくは在宅でできる内職のためのトレーニングを行うことも視野に入れるべきだと考えるようになった。

以上